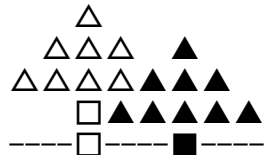


2006/11/15

北海道立林業試験場メールマガジン

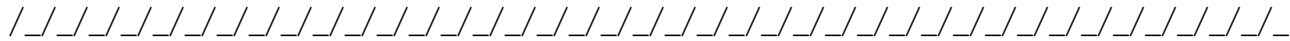


『北の森の達人』

Vol.13 第13号

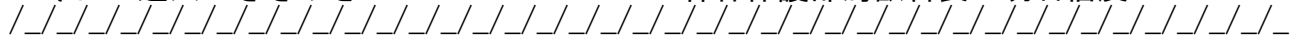
読者の皆様へ

北海道立林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。



目次

■刊行物ダイジェスト	光珠内季報 No. 144 光珠内季報 No. 143 グリーントピックス No. 35 平成17年度 北海道林業試験場年報 きたのみどり No. 13
■ホームページの紹介	表彰受賞関係
■森とみどりのQ & Aで解決!	動物特集
■今日の達人のささやき	森林保護部鳥獣科長 明石信廣



■刊行物ダイジェスト1 光珠内季報 No. 144 (2006.10発行)

- ◇カラマツ中高齢林分の野ネズミ被害実態と枯死木の発生経過 (道北支場 雲野 明)
カラマツ中高齢林の野ネズミ被害について2つの林分で複数年にわたり調査を行いました。その結果と過去の研究成果を参考にしながら、カラマツの中高年齢林分における野ネズミ被害実態と枯死木の発生経過について紹介します。
- ◇ハーベスタ作業の生産性はどうか (林業経営部 中川昌彦 ほか)

ハーベスタ作業における胸高直径と生産性の関係について、胸高直径が大きくなると生産性が上がることを再確認し、伐倒対象木の平均単材積からハーベスタ作業の生産性を推測する方法を検討しました。

- ◇めん羊と簡易電気牧柵を利用した林床植生管理 (森林保護部 徳田佐和子 ほか)
めん羊放牧を利用した新たな林床植生管理手法を提案するために、広葉樹見本林内に簡易電気牧柵システムを使った面積0.15~0.33haの連続した放牧区6個をつくり、サフォーク種めん羊15頭を夏季2ヶ月間放牧しました。その結果、1)簡易電気牧柵を使用すると、設置・撤去が容易な放牧区を林内に設置できる、2)家畜の扱いに慣れていない人でも放牧できる、3)めん羊放牧には草刈りとしての林床植生管理効果がある、4)中高木に対する直接的な影響はなく、低木に対する食害も予想可能で回避できることがわかりました。

- ◇園芸用苗木作りの話ーテララーメイド型苗木生産システムの構築と実践ー (道北支場 錦織正智)
林業試験場が開発した組織培養技術は、民間業者において園芸用苗木の生産システムへと発展しました。このシステムが生まれた背景と内容、実践例、展望について紹介します。

<-刊行物詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kihoh18.htm>

■刊行物ダイジェスト2 光珠内季報 No. 143 (2006.9発行)

- ◇林業試験場が平成18年度に取り組む試験研究のあらまし
- ◇2004年台風18号による風倒木被害の要因ー道有林での解析事例ー

(森林環境部 佐藤 創 ほか)
道有林全体の被害傾向の解析を行った結果、針葉樹が広葉樹よりも被害を受けやすかったこと、林齢80年で最も被害を受けやすくなること、斜面傾斜角が緩いほど被害を受けやすかったこと、風の強い地域で被害を受けやすかったこと、カラマツ林では間伐が被害を軽減することなどが明らかになりました。

- ◇ゆたかな生き物を育む里山の森づくりー森林にすむ昆虫類を指標としてー (道東支場 石濱宣夫)
昆虫類を指標として、その多様性と森林環境との関係を調べました。その結果、昆虫のグループや種類によって生息に好適な環境は異なっていました。したがって、昆虫類の多様性を維持・向上させるには、1)遷移段階の異なる林分を組み合わせる、2)階層性の発達を促す、3)老齢木や枯れ木・倒木・落枝をできるだけ保残する、などの森

- 林の構造を複雑にするような施業が有効と考えられました。
- ◇絶滅危惧種ヒダカミツバツツジの保全へ向けて (林業経営部 八坂通泰)
絶滅のおそれのある樹木ヒダカミツバツツジの保全対策を効果的に進めるために、自地での生育実態の調査、実生による増殖試験、種子の保存試験を実施しました。この試験結果に基づいて、自生地での保護区の設定方法、モニタリングの実施方法などヒダカミツバツツジの保全対策について検討しました。
 - ◇生垣作りに適した樹種と不適な樹種－緑化樹見本園の結果から－ (緑化樹センター 清水 一 ほか)
各種の樹木74種について、生垣にした場合の形、花や果実、紅葉の美しさについて調査を行いました。生垣作りに適した樹種・品種は45種あり、花が美しい生垣を作れるのは17種、果実が美しく生垣全体に着くのは9種、生垣の形が完成しなくても紅葉または黄葉が美しいのは34種ありました。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kihoh18.htm>

■刊行物ダイジェスト3・・・グリーントピックス No. 35 (2006. 8発行)

- ◇自動撮影カメラがとらえた森の動物たち
野生動物用の自動撮影カメラの多くは、動物の熱に反応して撮影されるもので、エゾリス程度の大きさの動物なら十分に反応します。デジタルカメラはバッテリーの持続時間が短いため、フィルムを使うものが主流です。林業試験場の光珠内実験林では、3台のカメラを2004年秋に設置してみたところ、これまでにヒグマ、エゾシカ、キタキツネ、エゾタヌキ、エゾクロテン、エゾリス、エゾユキウサギ、アライグマ、コウモリ(種は不明)が撮影されました。
- ◇ササを用いた法面緑化技術の開発
昨今、公共緑化事業では“生物多様性の保全”と“自然の再生”を求められる場面が増えており、併せて、緑化に掛かる“経費の縮減”が現実的な課題です。これらキーワードの実現には、自生植物の活用と維持管理の省力化を具現する新技術が必要です。この背景から、北海道の自生植物“ササ”に注目した技術開発を進めています。
- ◇ヤナギに来るクワガタムシ
幹にとまっているのをつかまえたり、木をけとばして落ちてきたのをかき集めたりして、クワガタムシを捕ったことがあるでしょうか？クワガタを探していると彼らが樹液を吸いにやってくる木がだんだんわかってきます。そうしたら、今度はその樹種を目標に探すことができます。本州以南のカブトムシやクワガタは、クヌギやコナラ、クリなどの広葉樹に集まりますが、北海道では河畔に生えるヤナギ類やハルニレなどによくやってくるのです。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics/topicsh16.htm>

■刊行物ダイジェスト4・・・平成17年度 北海道林業試験場年報 (2006. 8発行)

- ◇平成17年度試験研究課題
- ◇平成17年度試験研究の概要
 - ◆企画指導部 (2 課題) ◆林業経営部 (7 課題) ◆森林環境部 (6 課題)
 - ◆森林保護部 (3 課題) ◆緑化樹センター (7 課題) ◆支場 (5 課題)
 - ◆外部との共同研究 (9 課題)
- ◇研究発表業績
- ◇技術指導並びに普及
- ◇物量の分析及び鑑定
- ◇特許・品種登録
- ◇林業専門技術員の活動実績
- ◇総務

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/nempo.htm>

■刊行物ダイジェスト5・・・きたのみどり No. 13 (2006. 4発行)

- ◇国産樹「老桜樹」の増殖に取り組む！
- ◇生垣に適した樹種－林業試験場緑化樹見本園の結果から－
- ◇サクラの花とウメの花はどこが違う？
- ◇絶滅のおそれのある樹木の増殖技術
- ◇病虫害解説シリーズ3－冬の害虫防除－
- ◇緑化相談等の経過

- ◇「緑化技術現地講習会」が開催されました
- ◇緑化樹講座開催のご案内

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kitam/kitamindex.htm>

■ホームページの紹介・・・表彰受賞のお知らせ

会場から、2名の職員が表彰を受賞しました。受賞者、課題（論文）名は、次のとおりです。

◆第52回森林技術賞

◇受賞者：八坂通泰（林業経営部育林科長）

◇課題名：グイマツ雑種F1の低密度植栽による低コスト育林システムの開発

<-受賞課題詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/news/hyosyo.htm>

◆森林防疫奨励賞

◇受賞者：徳田佐和子（森林保護部病虫科研究職員）

◇論文名：トドマツ根株腐朽病の発生機構の解明と被害回避法の検討

（『森林防疫』Vol.54 No.10（全国森林病虫獣害防除協会発行）掲載論文）

<-受賞論文詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/news/hyosyo02.htm>

■森とみどりのQ&Aで解決！・・・動物特集

【Q1】「エゾリスの森」を作りたいが、どうすればよいか。

【A1】エゾリスの移入・定着は道内では、帯広や札幌などで試みられています。自然生息地からの誘致であれば、生息地と目的地（森林）の間を林帯で結ぶことによって、可能になるかもしれません。その際、餌になるオニグルミなどの木を混ぜること、また、捕食者（野良猫、カラスなど）から身を隠すのに十分な林帯を作ることが重要です。

【Q2】森林公園で野鳥の巣箱をかけたい。巣箱に入る鳥の種類、巣箱の数と間隔、巣箱のメンテナンス法について知りたい。

【A2】ふだん目にするような箱に穴のあいた巣箱には、シジュウカラ、スズメ、ニューナイスズメ、コムクドリ、ムクドリなど、木に開いた穴（樹洞）で繁殖する鳥が営巣します。繁殖期以外には夜間の寝る場所として利用されます。巣箱の数については特に限定したものはありませんが、巣箱の間隔については、なるべく多くの巣箱が利用されるようにするのであれば注意点があります。森林の中では、シジュウカラなどの広いなわばりを持った種類の営巣が主となるので、20m程度は離して設置すると多くの巣箱が利用されます。また広場周辺などでは、少し開けたところで営巣するニューナイスズメやコムクドリが利用します。これらの鳥は巣の周りだけをなわばりとするので、近接して巣箱を設置しても多くが利用されます。ただあまりに巣箱が近いと鳥同士で争いが起こりやすく、繁殖にも影響があるので10m程度は離しましょう。設置した巣箱は晩秋から3月ぐらいまでに1回ぐらいいは中をのぞき、古い巣材があれば取り除くのがよいでしょう。古い巣材があると底が浅くなるし、ノミなどの寄生虫がいるので鳥が利用しなくなるからです。

<-森とみどりのQ&A詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/qanda/search.asp>

■今日の達人のささやき

森林保護部鳥獣科の明石です。森では木の葉が落ち、草も枯れてしまう季節となりました。草木を食べる動物にとっては厳しい季節になります。北海道では、冬の間、エゾシカやエゾヤチネズミ、エゾユキウサギが木の幹をかじります。なかでも、林業被害が最も多いのがエゾヤチネズミ。全道の林業関係者によって実施されている野ねずみ発生予察調査によると、今年の生息数は比較的少ないと予想されますが、エゾヤチネズミ捕獲数の多い地域では、根雪前の適切な防除が必要です。

林業試験場では、野ねずみ発生予察調査の結果をとりまとめ、ホームページで公表していますので、参考にしてください。

<-野ネズミの発生情報詳細->

<http://www.fri.hro.or.jp/nezumi.htm>

//////////

- 発行・編集
北海道立林業試験場
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山
- 問い合わせ担当
企画指導部森林情報室情報管理科
メールマガジン専用電子メール mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp
- 記事の取り扱い
北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することは
ご遠慮ください。

